現代の国語　　単元指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 令和〇年〇月〇〇日（〇） | 場所 | １年○組教室 |
| クラス | １年〇組（〇〇人） | 授業者 | ○○　○○ |
| 科目名 | 現代の国語 | 単元名 | 評論Ⅲ |
| 使用教材 | 「経済の論理／環境の倫理」  （岩井　克人） | 使用教科書 | 探求　現代の国語（桐原書店） |
| 教材観 | 「経済の論理／環境の倫理」は、現代社会における重要な課題である環境問題を題材としている。環境問題がなかなか解決に至らない理由を追いかけることで、環境問題に対する根本的な考え方、すなわち世代間倫理にたどり着く。社会問題と対峙するにあたっては、「今、ここ」のみに限られた狭い視野で本質をとらえることは不可能である。そのような「社会」という語の内包する広がりや奥行きが、この教材で浮き彫りにされる。二項対立に留意させながら、丁寧に筆者の意見を追っていくことで評論文読解の基礎力を養いたい。 | | |
| 生徒観 | 落ち着いて思考できる生徒が多い。文章を読むことが好きな生徒が多く、休み時間前後でも教科書の内容に関して話をしている姿が見られる。意欲がある反面、表現の仕方に関しては課題となる点が多い。特に文章作成力に関しては、文法的な誤りや使用する言葉の拙さなど課題を抱える生徒が多い。記述する機会を多く持たせることで課題を克服していきたいと考える。 | | |
| 指導観 | 本単元では、二項対立に留意させながら、「論理」の内容と「倫理」の内容とを丁寧に読み取らせることを意識して授業を行いたい。語彙、構成等、新出の知識も多いため、生徒の理解度を確認しながら丁寧に授業を展開したい。また、環境問題の解決には「今」だけでなく、「未来」を見つめる視点が必要になることも理解させたい。  言語活動として、授業内での学びを自ら深める取り組みをさせたい。本文内容に係る関連資料[[#]気温上昇1.5℃と2.0℃でこんなに変わる未来の災害頻度 - 国際環境NGOグリーンピース(greenpeace.org)](https://www.greenpeace.org/japan/campaigns/story/2022/07/26/58496/)も用いながら、自分たちの行動が未来世代に影響を与えることを自覚させ、どのようにすれば「経済発展と環境保全の両立」が図れるかについて具体的な提案をさせる。特定の国や会社などが手掛けている具体的な事業等を調べさせ、それに自らの考えを加えることで提案内容を完成させる。この活動を以て単元の振り返りとし、振り返りプリントとして実施する。振り返りは作文記述で行う。文章作成力を付ける機会にもしたい。 | | |

１　単元の目標

（１）本文タイトルから二項対立になっていることに気づき、「つまり」や「こうして」などの接続語に注目することで、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

（２）「経済発展と環境保全の両立」に関する提案を作成する中で、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ

（３）「経済発展と環境保全の両立」に関する提案を作成する中で、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、粘り強く文章全体を整え、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題などを捉え直そうとする。　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の言語活動

本単元の教材で学んだ内容を基に、経済発展と環境保全の両立に係る具体的な事業等を調べさせ、自らの考えを加えた上で、読み手に伝わる提案を記述する。　（関連：〔思考力，判断力，表現力等〕B(1)イ）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①本文タイトルから二項対立になっていることに気づき、「つまり」や「こうして」などの接続語に注目することで、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。　　　　　((1)オ) | ①「経済発展と環境保全の両立」に関する提案が説得力のあるものとなるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。　　　　　　(B(1)イ) | 1. 「経済発展と環境保全の両立」に関する提案を作成する際に、自分の提案に説得力を持たせるため文献等を丁寧に調べたり、読み手からの助言を求めたりなどすることで、自分の文章の特徴や課題などを捉え直そうとしている。 |

３　単元の評価規準

４　指導と評価の計画（全３時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価方法 |
| １ | ・教科書p９９を読み「私的所有制」について理解をする。  ・私的所有制を理解した上で本文全体を読み大まかに理解する。  ・本文の読解 | 〔知識・技能〕① | 「観察・点検」 |
| ２ | ・単元の振り返り①。  ・調べ学習と振り返りプリントの作成 | 〔思考・判断・表現〕① | 「観察・点検」 |
| ３ | ・単元の振り返り②  ・相互評価を基に振り返りプリントを完成する。 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕 | 「観察・点検」  「記述の分析」 |

【単元の流れ】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| １ | 〇単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。  ・「私的所有制」について確認する。  ・本文を一読し、重要語句等の確認を行う。  ・第1、２段落の読解  ・第３～５段落の読解  ・第６～８段落の読解  ・第９～１２段落の読解  ・第１３～１６段落の読解 | ・「私的所有制」について本文中の例を用い、ペア活動や発表を通して理解させる。  ・本文タイトルから二項対立になっていることに気づかせる。  ・第１、２段落の読み取りを行い、経済学が倫理と離れたところで成立した事を理解させる。  ・「つまり」という接続語に注目しその後に要点が述べられていることを理解させる。  ・第３～５段落の読み取りを行い、「私的所有制が環境問題を解決する」ことになる考え方について理解させる。  ・第６～８段落の読み取りを行い、京都議定書の考え方について注目させ、それでも環境問題が解決しない事情について思考させる。  ・経済の論理では環境問題が解決しない理由について理解させる。  ・環境問題の解決には現在世代と未来世代とが「信任関係」を結ぶ必要があるということを理解させる。  ・「こうして」という接続語に注目し、「信任関係」を結ぶには「倫理」が必要であることを理解させる。 | 〔知識・技能〕①  「記述の点検」授業プリント  ・記載内容を点検する。  〔知識・技能〕①  「記述の点検」授業プリント  ・記載内容を点検する。  〔知識・技能〕①  「記述の点検」授業プリント  ・記載内容を点検する。 |
| ２ | 単元の振り返り①  ○単元を振り返る上で重要となる点を確認する。  ・経済発展と環境保持の両立をするための方法や取り組みについて調べ、自分の考えをまとめ提案する。 | ・１４段落の一文に注目させ、関連資料と合わせて本文内容を確認し、自分にも深く関わることとして捉えさせる。  ・経済発展と環境保持の両立を図る取り組みや方法について調べたり考えさせたりして、ペアで話し合わせる。  ・話し合った内容を基に400字以内で下書きさせる。 | 〔思考・判断・表現〕①  「記述の点検」振り返りプリント  ・記載内容を点検する |
| ３  本時 | 単元の振り返り②  ・経済発展と環境保持の両立について提案する。 | ・下書きをペアで相互評価させ、それを基に本書きを完成させる。  ・完成した本書きを基に再度相互評価させ、それを基に自己評価させる。 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕①  「記述の分析」振り返りシート  ・振り返りシートの内容から、本単元を通して生徒が学んだことを分析する。 |

≪本授業における評価の実際≫

５　観点別学習状況の評価の進め方

　共通必履修科目「現代の国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「B書くこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)イに「30～40単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1)［知識・技能］の評価

[知識・技能]①の「文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができている」状況を、「接続語に注目することで、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、授業プリントや振り返りプリントを中心に点検して評価する。

本文の読み取りができていない状況をCと捉え、個別に声をかけて、ヒントとなる本文の記述を示す、語句の意味を隣同士共有するなどし、理解の促進を図る。

(2)［思考・判断・表現］の評価

[思考力・判断力・表現力等]①の「『書くこと』において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができている」状況を、「「経済発展と環境保全の両立」に関する提案が説得力のあるものとなるよう、論理の展開、情報の分量や重要性などを考えて、文章の構成や展開を工夫している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、振り返りプリントの記述を分析し評価する。

振り返りプリントを自分の言葉で書くことができない状況をCと捉え、具体例を示しながら書くよう促す。

(3)［主体的に学習に取り組む態度］の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「『経済発展と環境保全の両立』に関する提案を作成する中で、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、粘り強く文章全体を整え、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題などを捉え直そうとする」状況を、「『経済発展と環境保全の両立』に関する提案を作成する際に、自分の提案に説得力を持たせるため文献等を丁寧に調べたり、読み手からの助言を求めたりなどすることで、自分の文章の特徴や課題などを捉え直そうとしている」姿を（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、振り返りシートの記述、自己評価を分析し評価する。

本単元を基にした気づきや学びがまとめられず、努力を要すると判断する状況をCと捉え、振り返りシートの評価項目を参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

６　学習指導案(３時間目/全３時間)

本時の目標：ア　「経済発展と環境保全の両立」に関する提案を作成する中で、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、粘り強く文章全体を整え、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題などを捉え直そうとする。

〔主体的に学習に取り組む態度〕

言語活動：「経済発展と環境保全の両立」に関し作成した提案を、ペアで相互評価する。

本時の展開：

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
| 導入  5分 | □本時で取り組むべきことについて確認する。 | ・考えたいことが、「経済発展と環境保全の両立」であることを確認する。  ・自分が作成した下書きを見直し、自分が伝えたいことが書けているか確認する。 |  |
| 展開①  ３０分 | □下書きをペアで相互評価する。  □相互評価を基に本書きを完成させる。 | ・隣同士で交換し、互いの下書きを確認する。  ・その後、添削、評価と活動していく。評価の際の基準は、①提案内容(５点)、②文のねじれや表現上の誤り(２点)、③誤字・脱字(２点)、④２００字以上書く(１点)の計１０点満点で評価する。  ・評価内容を受け、自分の文章の改善点を考える。  ・改善点を意識しながら本書きを完成させていく。 | ・机間指導し、生徒の質問や疑問点に適宜答えていく。生徒主体で添削していくことを前提とする。 |
| 展開②  １０分 | □本書きをペアで相互評価する。 | ・隣同士で交換し、互いの下書きを確認する。  ・その後、添削、評価と活動していく。評価の際の基準は、①提案内容(５点)、②文のねじれや表現上の誤り(１点)、③誤字・脱字(１点)、④２００字以上書く(１点)、⑤下書きの評価を踏まえている(２点)の計１０点満点で評価する。 | 【目標アに対する評価規準と評価方法】  規準：「経済発展と環境保全の両立」に関する提案を作成する際に、自分の提案に説得力を持たせるため文献等を丁寧に調べたり、読み手からの助言を求めたりなどすることで、自分の文章の特徴や課題などを捉え直そうとしている  方法：「記述の分析」（授業プリント）  〔目標ア達成のための手立て〕  ・振り返りプリントで助言する。 |
| まとめ  ５分 | □自己評価する。 | ・単元内容からの学びの振り返りや、相互評価を受けて感じたことを材料に自己評価する。 | ・振り返りシートを回収し、内容を確認する。 |